

報道関係者各位

調査リリース

## 「どうする？教えて！病院選びのポイントアンケート 2020」結果 【詳細版】

## 病院選びに患者の約8割が「迷った」

## 不妊治療当事者が病院を選ぶために必要な情報の開示を

不妊治療患者をはじめ不妊・不育で悩む人をサポートするセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine（ファイン、以下「当法人）」は、2020年4月～7月に、「どうする？教えて！病院選びのポイントアンケート2020」を実施し、5,140人の回答を得ました。回答数の多さからも、不妊・不育症治療の病院選びは当事者にとって大きな関心事であることがわかりました。

少子化社会対策基本法に基づき、少子化に対処するための指針として策定されている「第4次少子化社会対策大綱」(\*1)が2020年5月29日に閣議決定され、不妊治療については、治療に関する調査を行なった上で、効果が明らかな治療には広く医療保険の適用を検討し、支援の拡充を行なうなど、これまでより踏み込んだ記載がされました。また、同年9月16日、菅 義偉内閣総理大臣が就任記者会見で「不妊治療への保険適用を実現します」と発言されたこともあり、不妊・不育症の治療環境が大きく変わりつつあります。

当法人では、患者がどのような情報やサポート、病院の対応を求めているのかなどを把握し、患者一人ひとりが正しい情報に基づき、自分で納得し安心して治療が受けられるよう、治療環境の向上を図ることを目的にアンケートを実施しました。

●治療の情報探しは「病院のウェブサイト」(67%)が一番多く、次に「不妊・不育症当事者のSNSなど」(32%)、「不妊・不育症治療をしている家族・知人等からの口コミ情報」(29%)という声が集まりました。また、病院を選ぶ情報として知りたいのは「実際の患者の声・評判(口コミ)」(80%)という声が一番多く、口コミを頼りにしている人が多いことがわかりました。

●不妊・不育症治療患者が病院を選ぶのに77%の人が迷った経験がありました。

●通っている病院に満足している点は「院内が清潔で居心地がよいから」(83%)と「看護師の対応」(76%)が、「治療技術に期待している」(73%)や「医師の技術が優れている」(71%)を上回りました。患者が受けられる医療以外の部分に満足を感じていました。一方、通っている病院に一番不満を感じているのは「待ち時間の長さ」(48%)ということがわかりました。

本調査の結果をぜひ貴媒体にて取り上げていただき、広く社会への周知を図っていただけますようお願い申し上げます。

～Fine 会員は約 2,500 名 (2021 年 2 月現在)～

NPO 法人 Fine (ファイン) <https://j-fine.jp/>

〒135-0042 東京都江東区木場 6-11-5-201 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606

\* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです

E-mail◆NPO 法人 Fine 広報窓口 : finekouhou@j-fine.jp

(\*1) 第4次少子化社会対策大綱

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/law/pdf/r020529/shoushika\\_taikou.pdf](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/law/pdf/r020529/shoushika_taikou.pdf)

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/law/pdf/r020529/shoushika\\_taikou\\_b1.pdf](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/law/pdf/r020529/shoushika_taikou_b1.pdf)

## 調査結果概要

### < 1 > 情報探しは「病院のウェブサイト」67% (Q1)、知りたい情報は「患者の声・評判」80% (Q2)

治療を始める際、「不妊・不育症当事者の SNS など」(32%)や「不妊・不育症治療をしている家族・知人等からの口コミ情報」(29%)などで病院名を知り、「病院のウェブサイト」(67%)を最も重視。知りたい情報は「病院のウェブサイト」には掲載されていない「実際の患者の声・評判(口コミ)」(80%)。(P5 参照)

### < 2 > 77%の人が病院選びに迷った経験がある (Q5)。通い始めて満足しているのは、精神面での安心感や病院との信頼関係が多かった (Q8)

迷った理由で多かったのは「高額な費用・病院間の料金格差」(21%)、「ホームページ・口コミ・ブログ・Twitterなどの情報で病院を決定することが難しい」(17%)。迷わなかった理由は「通院しやすいから」(32%)、「専門病院がそこしかない、あるいは少なくともほとんど選択肢がない」(21%)。通院している病院に満足しているところは、「院内が清潔で居心地がよいから」(83%)、「看護師の対応」(76%)、「治療技術に期待している」(73%)、「医師の技術が優れている」(71%)と精神面での安心感や病院との信頼関係に満足していることが読み取れました。(P5 参照)

### < 3 > 転院した理由の「妊娠しなかったから」を選んだ患者は57%にとどまる (Q16)

転院した理由で最も多かったのは「妊娠しなかったから」(57%)。「ここではやっていない検査／治療を受けたかったから」(43%)人が転院する前に通っていた病院は、「産婦人科一般 クリニック・診療所・医院」(37%)。また、3番目に「医師の対応がよくなかったから」(40%)。(P6 参照)

### < 4 > 転院経験者の65%が、1年未満の通院期間で転院を考えた (Q14)

1回目の転院時の年齢は、「30歳～34歳」(39%)、「～29歳」(35%)、「35～39歳」(21%)で、34歳以下が74%。2回目では34歳以下が72%。(P7 参照)

### < 5 > 不妊や不育、治療に対して思っていること (Q32)

「不妊や不妊治療に対して」、「不育や不育治療に対して」、「公的な助成に対して」について寄せられた、8,628に及ぶ生の声を分析。一番多かったのは、それぞれ「経済的な負担が重い」(35%)、「不育症の認知や正しい理解が広がってほしい」(18%)、「助成金額の増加を望む」(23%)。(P7 参照)

### < 6 > 自由記述コメントより

コメントの一部を抜粋紹介。(P8 参照)

### < 7 > 回答者のプロフィール

回答者の性別は、女性が98%、男性が2%。年齢は30歳代が69%、40歳代が17%、20歳代が14%。居住地は、関東地区(1都3県)在住者が47%。(P10 参照)

**当法人理事長 松本亜樹子のコメント**

不妊・不育症は高額な費用を必要とする治療でありながら、当事者は十分な情報もないままで病院に迷っています。今回のアンケートから、「病院のウェブサイト」の情報を頼りにせざるを得ない人がたいへん多いことがわかりました(表1)。特に初めて通う病院を選ぶときは、患者自身が不妊や不妊治療に対して正しい知識を十分に持ち合わせていないことが多い状態です。日本において一元化された治療成績のデータがなく、「病院のウェブサイト」に掲載されている数字の見方がわからない中で病院を選ばざるを得ない現状は、患者にとって負担であり、いまの日本の不妊治療の大きな課題にほかなりません。

「速報版」リリース(\*2)で明らかにしたように、転院することにより「高額になった医療費」「通院距離の長さ」「検査の重複」などの不利益があるにもかかわらず、転院する患者は53%、検討したことがある人を含めると65%でした。不妊治療は妊娠・出産を目的として受けるものです。その観点で考えると、転院する理由で「妊娠しなかったから」を選ぶ人が100%でもおかしくないと言えます。しかしながら、複数回答の設問であったにもかかわらず、「妊娠しなかったから(転院を決めた)」と答えた患者は57%にとどまりました(調査リリースグラフ集 表10。以下調査リリースグラフ集省略)。これを除くと最も多かった転院の理由は「ここではやっていない検査/治療を受けたかったから」が43%。自分の身体の状態と病院で行なっている治療や受けられる検査との乖離が原因と考えられます。もしも最初から病院についての詳細な情報が手に入っていたなら、患者は転院する必要がなかった可能性があります。

「転院した(考えた)理由」の自由記述コメントには、「病院のウェブサイトを見て期待して通い始めたけれど、実態は違っていた」という内容が多くみられました。「病院のウェブサイト」は、国などによる客観的な指標のない情報です。日本産科婦人科学会(\*3)登録機関の調査では、妊娠の定義を「胎嚢確認」としています。病院がウェブサイトに掲載している実績データには、妊娠判定の基準をどこにおいているか明示のないケースもあります。一言で妊娠率と言っても「妊娠の定義」や「何を母数にするか」によって、その値は変動します。妊娠率の分子と分母をそろえても、その患者のバックグラウンド(年齢、既往歴、不妊原因等)がバラバラでは、数字だけを並べて比較することは非常に難しいのです。また、たとえガイドラインなどがあっても、それと実態を照らし合わせるしくみはないため、客観的評価につながるものではありません。現行の不妊治療はその病院の実力を公平に判断する指標がなく、患者は自分にあった病院選びができずに、転院することになります。

「妊娠率・出産率」について患者が知りたいことは、究極は「私は出産できるの?」であり、自分の妊娠・出産の近道になるためのデータが知りたいと、アンケートからも多くの声が上がっています。そのためにはせめてそれぞれの病院の年齢別の「周期数(症例数)・採卵あたりの妊娠率(採卵周期数に対して妊娠周期数)・出産率」加えて「採卵実施率・採卵成功率・顕微授精の受精率・凍結融解後の生存率」などの細かいデータが公開されれば、病院の実力を知る重要な情報となりうるでしょう。これらの算出元となるデータはすでに存在し、日本産科婦人科学会には、UMIN(\*4)のシステムを利用した、不妊治療を受けた患者一人一人のデータが蓄積されています(名前などの個人情報を除く)。これを用いて計算すれば、「●歳から●歳までの妊娠率」等の大まかな数字ではなく、前出の明確な数値を出すことは可能です。ただ、学会や各施設にこれらのデータを出すことを求めるのはその時間や労力を鑑みると容易ではないと考えます。これを解決するには、国による第三者機関を設置し、それによるデータ算出と開示を行なうこと、また施設に対する定期的なチェックシステムを整えるなどといったしくみが、今すぐ必要と言えるでしょう。

(\*2) プレスリリース「どうする?教えて!病院選びのポイントアンケート2020」結果速報  
[https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs\\_byoin\\_anketo2020\\_sokuho.pdf](https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs_byoin_anketo2020_sokuho.pdf)

(\*3) 日本産科婦人科学会 <http://www.jsog.or.jp/>

(\*4) 大学病院医療情報ネットワーク (University Hospital Medical Information Network = UMIN)  
<https://www.umin.ac.jp/umin/summary.htm>

## 調査概要

- ・ 調査目的：不妊・不育治療患者の病院探しや通院にかかわる現状とニーズを把握し、必要な社会的サポートを明確にするため。患者一人ひとりが納得のいく治療を受けられるよう、治療環境の向上を図るため。  
またアンケート結果から当事者の声をまとめ、国に政策提言や要望書等を提出するため。
- ・ 調査期間：2020年4月27日～2020年7月31日
- ・ 調査方法：WEB アンケート。自由回答を含む 38 問
- ・ 対象者：不妊治療・不育治療をこれから受ける・受けたことのある男女
- ・ 回答数：5,140
- ・ 設問：[https://j-fine.jp/activity/enquate/byoin\\_ank2020.pdf](https://j-fine.jp/activity/enquate/byoin_ank2020.pdf)

※本調査結果を引用する場合、下記をご記載ください。

『NPO 法人 *Fine* 「どうする？教えて！病院選びのポイントアンケート 2020」より』

**調査結果詳細**

< 1 > 情報探しは「病院のウェブサイト」67% (Q1)、知りたい情報は「患者の声・評判」80% (Q2)

**Q1. 不妊・不育症治療を始める際に、治療の情報はどのように探しましたか？**

最も多かった回答は「病院のウェブサイト」(67%)、次いで「不妊・不育症当事者の SNS など」(32%)、「不妊・不育症治療をしている家族・知人等からの口コミ情報」(29%) でした (表 1 参照)。

**Q2. 病院を選ぶうえで、どのような情報が知りたいですか？**

最も多かったのは「実際の患者の声・評判 (口コミ)」(80%)、続いて「治療費用」(74%)、「治療成績」(72%)、「診療日・診察時間」(72%) でした (表 2 参照)。

Q1 で「病院のウェブサイト」を選択した人は「不妊・不育症当事者の SNS など」「不妊・不育症治療をしている家族・知人等からの口コミ情報」も選択しており、客観的なデータや指標には基づかない情報を頼りにしていることがわかりました。Q2 の知りたい情報は「病院のウェブサイト」には掲載されていない「実際の患者の声・評判 (口コミ)」(80%)です。「病院のウェブサイト」にその病院で行なっている治療や受けられる検査、治療成績などの情報が記載されていれば、病院選びがしやすくなるのではないのでしょうか。

< 2 > 77%の人が病院選びに迷った経験がある (Q5)。通い始めて満足しているのは、精神面での安心感や病院との信頼関係が多かった (Q8)

**Q5. 不妊治療や不育治療の病院を選ぶうえで、迷った経験はありますか？**

「すごくある」(45%)、「少しある」(32%)があわせて約 8 割を占めました。「あまりない」(13%)、「まったくない」(5%)はあわせて約 2 割でした(表 3 参照)。

**Q6. Q5 の「迷った」あるいは「迷わなかった」理由は何ですか？**

病院選びに迷った経験が「すごくある」と答えた 2,316 人に理由を自由記述で聞き、その内容を分類しました(表 4 参照)。「体外受精等の技術料は公表されていても、使用する薬代等の詳細な部分までは公表されておらず、費用面での比較もできない」(30 代女性・兵庫県)など「高額な費用・病院間の料金格差」(21%)。「治療実績成果の基準が国や学会などで定められた一定の基準がなく、結局口コミや雰囲気などの信頼性に不安な要素を加味し検討せざるを得ない」(30 代女性・東京都)など「ホームページ・口コミ・ブログ・Twitter などの情報で病院を決定することが難しい」(17%)。「治療成績の見方がわからないし、病院によって数値の出し方が違うので比較できなかった」(40 代女性・愛知県)など「病院の治療方針が自分に適しているのかわからない」(14%) (表 4 参照)。

一方、病院選びに迷った経験が「まったくない」と回答した 247 人の理由を分類すると、「通院しやすいから」が最も多く 32% でした(表 5 参照)。「仕事に支障なく通える病院が、そこしかなかったから」(20 代女性・東京都)、「仕事を続けながら治療するつもりだったので、通勤経路上にある病院一択だった」(30 代女性・神奈川県)、「仕事をしながら通える(勤務先から近く、診察受付時間が比較的長い)病院が他になかったから」(40 代女性・大阪府)など、仕事と治療の両立にウエイトを置いているコメントが多いのが特徴的でした(表 5 参照)。

## 【仕事と不妊治療に関する調査について】

※参考 1 「仕事と不妊治療の両立に関するアンケート Part 2」(2017 年) [https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs\\_ryoritsu2\\_1710.pdf](https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs_ryoritsu2_1710.pdf)※参考 2 不妊退職の経済損失(2020 年) [https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs\\_kokkaibenkyokai200130.pdf](https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs_kokkaibenkyokai200130.pdf)※参考 3 厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に関するシンポジウム」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11909000/000706115.pdf>

※参考 4 厚生労働省不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル(事業主向け)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kovoukintou/pamphlet/dl/30k.pdf>**Q7. 現在通院している(もしくは最後に通った)病院に満足していますか?**

全体で見ると「とても満足」「やや満足」をあわせて73%、「やや不満」「とても不満」をあわせて10%となりました(表6参照)。しかし、「現在治療中の人」(回答数2,222)だけで見ると「とても満足」「やや満足」をあわせて64%、「治療終了した人」(回答数2,323)だけで見ると「とても満足」「やや満足」をあわせて86%で、現在治療中の人より満足度が高かったです(表7、表8参照)。

**Q8. 現在通院している(あるいは最後に通院した)病院についてお答えください。どんなところに満足しています(いました)か?**

一番満足しているところは「院内が清潔で居心地がよいから」(83%)、続いて「看護師の対応」(76%)、「治療技術に期待している」(73%)、「医師の技術が優れている」(70%)、「治療結果への期待感がある」(70%)でした。(表9参照)。

「治療技術に期待している」「医師の技術が優れている」より、「院内が清潔で居心地がよいから」「看護師の対応」が上回りました。不妊治療をする上での精神面での安心感や、通う病院との信頼関係などの重要性が感じられます。

**< 3 > 転院した理由が「妊娠しなかったから」を選んだ患者は 57%にとどまる (Q16)****Q16. 転院した(考えた)理由は何ですか?**

転院の理由で最も多かったのは「妊娠しなかったから」(57%)、次いで「ここではやっていない検査/治療を受けたかったから」(43%)、「医師の対応がよくなかったから」(40%)でした(表10参照)。

その他・転院したときのエピソードでは次のようなコメントが寄せられました。「なかなか妊娠しないので気になる検査や治療方法を医師に聞いてみたが『うちではやっていない』と。転院することに決めた」(30代女性・千葉県)、「まだ30歳でしたが、うちでは高齢出産になりそうな人は診たくないようなことを言われた」(30代女性・山形県)、「検査でアレルギーを起こした時に対応してくれず不信感を持った」(40代女性・埼玉県)、「無精子症が判明しているのにタイミング法を続ける意味がわからなかった」(20代女性・兵庫県)。

**Q16. 転院した(考えた)理由は? × Q13. 転院する前の病院**

「ここではやっていない検査/治療を受けたかった」と回答した1,448人が、転院する前に通っていたと回答した病院は、「産婦人科一般 クリニック・診療所・医院」(37%)が一番多く、オレンジ色の部分「婦人科一般 クリニック・診療所・医院」「産婦人科一般 総合病院・大学病院」「不妊治療外来 総合病院・大学病院」「婦人科一般 総合病院・大学病院」「男性不妊治療外来 総合病院・大学病院」「不育症治療外来 総合病院・大学病院」までをあわせると82%、水色の部分の専門病院「不妊治療専門 クリニック・診療所・医院」「不育症治療専門 クリニック・診療所・医院」「男性不妊治療専門 クリニック・診療所・医院」が37%でした(表11参照)。

**Q17. 転院した場合、病院を選ぶうえで重視するポイントや内容は変わりましたか?**

Q11で転院経験が「ある」と答えた2,726人に尋ねたところ、「はい」67%、「いいえ」33%でした(表12)

参照)。

#### Q1. 不妊・不育症治療を始める際に、治療の情報はどのように探しましたか？

#### Q12. 転院を考えた際に、情報はどのように探しましたか？

両者にほとんど差はなく、どちらも一番重視したのは「病院のウェブサイト」、続いて「不妊・不育症治療をしている家族・知人等からの口コミ情報」、「不妊・不育症当事者のブログ・SNS・ツイッターなど」でした。しかしながら、最も差があったのは「不妊・不育症当事者のブログ・SNS・ツイッターなど」で、転院の際にこれを利用したという人が14ポイント減っています。転院の際には、インターネットの口コミ情報を頼る割合がそれだけ減ったと考えられます。その一方、「他の医療機関からの紹介」が5ポイント増えました(表13参照)。

#### Q11. 転院経験×Q24. 納得できる治療のために求めたい治療環境

転院経験が「ある」と答えた2,726人と「ない」と答えた1,767人に、納得できる治療のために、求める環境も違うのかどうかをみてみました(表14参照)。一番差が大きかったのは「胚培養士の技術を信頼できること」で、転院した人のほうが16ポイント多いという結果でした。その他のコメントでは、「質問や治療方針についてこちらから話しても嫌な顔をされないこと」(40代女性・岡山県)、「専門外の相談についても適切に他の施設や病院に紹介や提携できるシステムがあること」(40代女性・京都府)、「自分でメモはしているが、進捗状況を紙で知らせてくれるとわかりやすくありがたい」(30代女性・東京都)、「仕事のスケジュールなどに配慮してくれること」(30代女性・東京都)、「最新治療情報も取り入れていること」(30代女性・沖縄県)などがありました。

#### Q26. 治療に取り組むにあたり、あなたが知りたいデータは何ですか？

患者が知りたいデータは、「年齢別の治療成績」(78%)、「治療段階別の成績」(75%)、「病院別の治療成績」(73%)となっています(表15参照)。患者はさまざまな治療データの開示を望んでいることが読み取れました。

### < 4 > 転院経験者の65%が、1年未満の通院期間で転院を考えた (Q14)

#### Q14. 転院したことのある(または考えたことのある)方にお聞きします。病院に通ってから、どのくらいの通院期間で転院を考えたか？

Q11で転院したことが「ある」と回答した2,726人に限定して集計したところ、通院期間が1年になる前に、初めての転院を考えた人が65%いることがわかりました。転院2回目、3回目でも1年未満の通院期間で転院を考えた人が多いことがわかりました(表16、表17、表18参照)。

#### Q15. 転院した際の年齢についてお聞かせください

転院したことが「ある」と回答した2,726人に、転院した際の年齢を尋ねました。転院の回数が増えるにつれ、30歳以上の占める割合が増えました(表19参照)。

第一子出産までの年齢を気にする人が、早期の転院につながっていると考えられます。

### < 5 > 不妊や不育、治療に対して思っていること (Q32)

#### Q32. 日頃、不妊や不育、治療に対して、あなたが思っていることを、何でも自由にお書きください。

「不妊や不妊治療に対して」では、自由記述の内容を分類すると「経済的な負担が重い」(35%)が最も多く、続いて「精神的な負担が辛い」(27%)、「仕事との両立が難しい」(20%)、「周囲の理解を望む」(18%)、「保険適用してほしい」(17%)となっています(表20参照)。

「不育や不育治療について」では、自由記述の内容を分類すると「不育症の認知や正しい理解が広がってほしい」(18%)、「検査や治療にかかる費用が高い」(9%)、「保険適用してほしい」(7%)、「原因の研究、検査・治療法の確立が進んでほしい」(7%)、「3回流産をしないと検査できないのは負担が重い」(7%)となっています(表 21 参照)。

「公的な助成に対して」では、「助成金額の増加を望む」(23%)、「保険適用してほしい」(23%)、「所得条件の緩和・撤廃」(16%)、「制度のさらなる改善を望む(細やかな対策・わかりやすく現状に即した制度に)」(13%)となっています(表 22 参照)。

## < 6 > 自由記述回答より

本アンケートの自由記述欄に寄せられたコメントを抜粋します。

### ◆不妊治療や不育治療の病院を選ぶうえで「迷った」理由 (Q6)

- 治療実績が公開されていない。各機関で統一された実績公開がない。治療方針が多様すぎる、自分にどの方針が合うかやってみないとわからない。(20代女性・東京都)
- 一元化された情報サイトがなく、たくさんのサイト(クリニックのもの、口コミなど)を見比べなければならなかった。(40代女性・神奈川県)
- 初めてだったので、何を基準に選んでいいかわからなかった。周りにも経験者がおらず相談できる人がいなかった。(30代女性・東京都)
- 自分で治療に関する知識をつけ、検査をし、医院を選択しなければならないのがすごく大変でした。また実績を公開していない医院も多く、これも選択を困難にさせる要因でした。(30代女性・東京都)
- 田舎なので有名クリニックに通うには県外しかない。(20代女性・愛媛県)
- 不妊症のための病院情報が少ない。最初から不妊症クリニックに行くか、婦人科に行くかの違いがわからない。(30代女性・東京都)

### ◆不妊治療や不育治療の病院を選ぶうえで「迷わなかった」理由 (Q6)

- 住んでる場所が地方すぎて、病院を選べなかった。仕事をしながら通える場所を選ぶしかなかった。(30代女性・青森県)
- 居住地のある市内で1つしかない不妊専門クリニックが高度生殖医療を扱っていて、自分にとってはそれ以外の選択肢がなかったから。(30代女性・福島県)
- 田舎なのでそこしかなかった。また、まずは行かなければ始まらないと思った。(30代女性・鳥取県)
- 働きながら治療を続けるためには、職場に近い医院でなければ通うことができない。近隣に医院は1つしかなく、他に選択肢が無かったため。(30代女性・長野県)
- クリニックからの紹介だったから。相談できる相手もなく比較・調査方法がなかった。(30代女性・東京都)
- その病院のホームページがわかりやすく、治療方針や治療費が明確だったから。(30代女性・埼玉県)

### ◆転院した(考えた)理由 (Q16)

- 病院のホームページを見て、土曜日でも対応していると書いてあったので連絡したところ「初回のみ平日に受診してほしい」と言われたので、初回のみならばと仕事の都合をつけて有給をとった。最終的には、病院側から「土曜日の先生はもっと重要な患者を診るから土曜日の通院はできない」と急に電話がかかってきた(30代女性・神奈川県)
- 不妊治療とかかかっているわりに AIH(人工授精)まで進まず、ずっと原因不明のままでタイミング法を続けさせられていた。(30代女性・神奈川県)
- 精液検査すら他機関への委託だったので、病院の都合に合わせて精液を持参しなければいけなかった。(30代女性・佐賀県)
- 採卵時に静脈麻酔を依頼したら、静脈麻酔ができるのは週に3日のみと言われて断られた。(40代女性・福岡県)



- 流産時、できる検査が限られていたので不育症検査全部ができるクリニックへ転院した。(30代女性・千葉県)
- スタッフの方々は優しく丁寧でしたが、胚凍結管理はされてなく、胚培養等は院長一人でされていました。受精に失敗した卵子を患者に知らせる前に廃棄されました。(40代女性・東京都)

#### ◆これまでの、医師はじめスタッフの対応で「嫌だなあ」「困った」「悲しい」ことがあった (Q10)

- 電車の遅延があったにも関わらず、受付時間を1分でも過ぎたら受け付けてくれなかった。時間休をもらって通院していたため、休みも時間も無駄になり、働きながら治療することの難しさを知った。融通のきくクリニックに転院するいいきっかけになった。(30代女性・神奈川県)
- 忙しいのか内診が終わってまだ着替えが完了していないのに説明をしだす医師がいて、聞き取りづらくて困ったし嫌だった。(30代女性・東京都)
- 初めて通った婦人科クリニックで(子宮)筋腫がわかった時に手術の相談をする時に、不安でいろいろ細かく聞いたら「筋腫くらいでしつこい！」と声を荒らげられて大変ショックだった。(40代女性・大阪府)
- 流産の手術の前に確認のための説明を求めたら「困るんだよね、産科優先だから説明の時間はないから」と言われた。手術後の安静状態では、隣のスペース(カーテンで仕切られてるだけだった)で診察中の妊婦さんがいて、胎児の心拍音が丸聞こえでつらかった。(40代女性・神奈川県)
- 稽留流産となり、落ち込んでいた私に「結構あること。あなただけじゃないよ」と、慰めるために看護師さんがおっしゃいました。看護師さんからしたら結構あることかもしれませんが、自分にとって一度でもあってほしくないことです。その時にその言葉、何の慰めにもなりませんでした。(40代女性・三重県)
- 精液検査結果が基準値はぎりぎり超えているものの一般の平均の半分以下だったが、医師の説明がオブラートに包まれすぎて、悪い結果だということが認識できなかった。また、追加検査もすぐにはしなかったため男性不妊に気づけなかった。(30代女性・神奈川県)

#### ◆不妊や不妊治療について (Q32)

- 医療施設を選ぶ際に一番大事なのは施設ごとの治療実績ですが、それが統一された基準で公開されていないことが日本の不妊・不育治療における課題の一つだと思います。これを改善するために、各施設の技術や実績などをチェックする第三者機関の設置と、各施設の治療実績の公開が必要だと思います。(30代女性・東京都)
- 検査や治療の地域格差が想像以上だった。転院して決定的な原因が見つかり地元で受けていた2年間の治療は無駄だったのかと思うと喪失感でいっぱいだった。(30代女性・栃木県)
- 職場での理解が進んでほしい！ 実際に私が休みを申請したとき、「あなたのプライベートは尊重できない」とハッキリ上長に言われた。(30代女性・東京都)
- 25歳から始めた不妊治療。若いから大丈夫だと言われもうすぐ4年が経ちます。100万円以上治療に注ぎ込み未だに授かっておりません。(20代女性・山口県)
- 県外の離島から通っています。毎回飛行機での通院の為、治療費以外にも航空券代、宿泊等、県内に住んでいる方達より遥かに高額な治療費になります。(40代女性・鹿児島県)
- 夫の男性不妊が原因で妻が健康な20代でも顕微授精をすることになった。高度治療は女性側の負担がとても大きい。(20代女性・茨城県)

#### ◆不育や不育治療について (Q32)

- 不育の専門医が少なく、病院間でもできる検査に差がある。その病院ではできないならできるところへ紹介するなど、医師間でも連携をとってほしい。(30代女性・大阪府)
- 2回目の流産後、医師のすすめで不育症の血液検査をして、加齢以外の原因が自分にもあったことを知りました。体外受精2回、移植3回、不育症検査2院、流産の手術代やその後の経過観察など含めて150万円以上を費やしました。最初の自然妊娠から約7年かかって、自分にも不育の原因があることがわかりました。(30代女性・東京都)
- 2回流産したので不育症を疑ったが、化学流産のため当てはまらないと医者に言われた。ただインターネット

ットで検索すると、化学流産でも不育症に該当しているという意見もあって、どちらが正しいのか、自分は検査せずにこのまま治療を続けていいのか悩んだ。(30代女性・茨城県)

- 子どもがほしいのに、妻か夫のどちらかに染色体異常がある、というのはとても悲しいことです。染色体異常があると、流産の確率が通常よりもはねあがります。流産は、本当に心がズタズタになるくらいに傷つきます。染色体異常は生まれ持ったもので、染色体自体を治療することはできません。(20代女性・新潟県)
- 男性不妊で精子に限りがあるため、1回目の(胚)移植が陰性だった時に一通りの不育性検査は行なった。現在は不育の定義は流産や死産の回数で線を引かれていて、私のような状況で不育症検査をしても助成はない。なのでこういうチャンスが少ないから前もって検査を受けている人間がいることを知ってほしい。(30代女性・東京都)

#### ◆公的な助成について (Q32)

- 今の市では転居して1年以上でないと助成金が下りず、該当しないため、もらえないのがつらい。(20代女性・京都府)
- 助成金対象のクリニックが少なく、混雑しすぎていて地元総合病院は初診を受け付けてもらえない状況です。(20代女性・福島県)
- 自治体ごとに助成内容に大きく開きがあることを知らずに引越したため、後悔しました。(30代女性・大阪府)
- 私も使わせてもらいましたが、手続きは煩雑だし、クリニックに文書を依頼すると3,000円~5,000円ほどかかり、「助成を受けるのにもお金がかかるのか」と落胆しました。(20代女性・静岡県)
- 治療がうまくいかなかった後に助成の手続きがしんどかった。会計の段階で助成される制度があれば嬉しい。(40代女性・東京都)

#### < 7 > 回答者のプロフィール

##### 性別・年齢・お住いの都道府県

回答者の性別は、女性が98%、男性が2%でした。年齢は30歳代が69%、40歳代が17%、20歳代が14%でした。居住地は東京都が25%、神奈川県が10%、大阪府が7%でした。(表23、表24、表25参照)。

##### 【不妊治療の現状】

日本で不妊を心配したことがあるカップルは3組に1組、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある(または現在受けている)カップルは5.5組に1組といわれています(\*5)。日本で体外受精や顕微授精などの生殖補助医療(ART)によって生まれた子どもは、2018年は56,979人(\*6)を数え、その年の出生児全体の約16.1人に1人がARTにより誕生したことになります(\*7)。さらに累積では約65万人がARTで誕生しています(\*6)。

(\*5) 国立社会保障人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」(2015年6月)

[http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/NFS15\\_report4.pdf](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/NFS15_report4.pdf)

(\*6) 生殖補助医療による出生児数(2018年累計出生児数)は『日本産科婦人科学会雑誌第72巻第10号』より引用。

<http://fa.kyorin.co.jp/jsog/readPDF.php?file=72/10/072101229.pdf>

(\*7) 2018年(平成30年)の出生数は、「人口動態統計」(厚生労働省)による。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei18/index.html>

~Fine 会員は約2,500名(2021年2月現在)~

NPO 法人 Fine (ファイン) <https://j-fine.jp/>  
〒135-0042 東京都江東区木場6-11-5-201 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606  
\* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです  
E-mail ◆ NPO 法人 Fine 広報窓口 : finekouhou@j-fine.jp